いざ！江戸街道プロジェクト

東海道篇

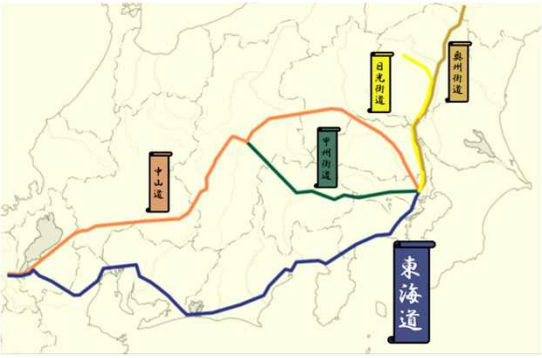
弐の巻

関東運輸局
Kanto District Transport Bureau

東海道ってどんな道？

東海道は、53／57の宿駅で結ばれ、東と西の交流に大きな役割を果たした幹線道路です。

徳川幕府が開かれる少し前の慶長6年（1601年）。関ヶ原の戦いに勝利し実権を握った家康の指示により、五街道の整備が始まりましたが、この時はまだ戦国の乱世が治まっていませんでした。そのため東海道は、西に遣わせていた家康軍の兵士をすばやく行軍させられるように道幅の拡張などを施し整備されたと言われています。



幕府が開かれ世の中に平穏が訪れると、東海道は大名行列のための主幹道路として使用されるようになり、やがて多くの人々が行き交う大衆の道へと変化を遂げました。現在でも、国道や高速道路、鉄道などの近代交通は東海道に沿う形で構築され、東西の往来を支える大きな礎となっています。

また、東海道を舞台に宿場の人々の生活の様子や美しい風景を描いた歌川広重の浮世絵集「東海道五拾三次」は、国内外問わず多くの人々から高い評価と支持を得ています。

宿場一覧（広域関東エリア）

至 京都 ●●● 三島 ― 箱根 ― 小田原 ― 大磯 ― 平塚 ― 藤沢 ― 戸塚 ― 保土ケ谷 ― 神奈川 ― 川崎 ― 品川 ― 起点 日本橋

その歴史、さまざまなり

中原御殿 ～白兎が愛した別荘～（1596年～1657年）

徳川家康が、隠居の地である駿府（現在の静岡市葵区）と江戸を往復する際や、趣味の鷹狩りをする際の宿舎として、平塚宿の中原地区に建てられました。約7100坪の広大な敷地であったといわれています。

中原御殿の跡地は現在小学校になり、敷地内には石碑が建てられています。平塚市内には家康の遺品や史跡、伝承が数多く残されています。

生麦事件 ～その時、幕末が動いた～（1862年）

神奈川宿の手前の漁村、生麦村（現在の横浜市鶴見区）にて、乗馬中のイギリス人4名が薩摩藩の大名行列に遭遇。馬から降りるように指示されるも日本語がわからず、激怒した藩士に無礼討ちにされた事件。

この事件は国際問題に発展し、のちに薩英戦争、そして明治維新へと繋がっていきます。事件の現場には現在も碑文と立て看板が残されています。

箱根駅伝 ～お正月の国民的イベント～（1920年～現在）

正式名称は「東京箱根間往復大学駅伝競走」、今や日本のお正月には欠かせないイベントです。コースの大半は旧東海道で、鶴見（川崎宿）、戸塚、平塚、小田原といった、かつての宿場町に中継所を置いています。

1917年に開催された、京都・三条大橋から東海道五十三次を辿って東京・上野に至る日本初の駅伝「東京奠都五十年奉祝・東海道駅伝徒歩競走」が原型になったと言われています。

東海道沿いの観光コンテンツ（一例）

品川　天王洲アイル

再開発が進む、フォトジェニックな運河の街。アートや建築に関連したスポットが点在するほか、水辺のボードウォークには飲食店や商業施設が軒を連ねます。

藤沢　江の島

都内からほど近いアクセスで「島」の魅力をまるごと楽しめる景勝地。周辺は人気作品の舞台となった箇所も多く、聖地巡礼で訪れるファンでも賑わっています。

小田原　小田原城と城下町

駅から徒歩圏内に小田原城をはじめとした江戸時代の史跡が数多く残るほか、名物のかまぼこや新鮮な魚介など、港町ならではのグルメも楽しめます。

川崎　工場夜景

製鉄所や石油コンビナートが数多く並ぶ京浜工業地帯。その複雑で重厚な構造物が煌々と光る姿は、まるでSFの世界に迷い込んだかのように幻想的です。

平塚　高麗山（こまやま）公園（湘南平）

写真提供：平塚市観光協会

高台から相模湾と富士山を360°のパノラマで望む絶景スポット。カップルが永遠の愛を願うまじない「愛の南京錠」の発祥の地とも言われています。

箱根　箱根登山鉄道

「天下の険」を支える交通。小田原から箱根の玄関口・箱根湯本を経由し、強羅、そして大涌谷に繋がる早雲山までを、電車とケーブルカーで結びます。

実際に行われている街道観光の取り組み

スマホアプリ「膝栗毛」

デジタルとリアルを組み合わせ、東海道の歴史や文化などを学びながら地域のストーリーを巡る探訪体験を楽しむことができる、スマートフォン用アプリです。

App Store　Google Play

東海道御宿場印

日本橋～三島の全11の宿場町に本店を置く信用金庫が連携し、各地の観光協会などで「御宿場印」を販売しています。「御朱印」のように御宿場印を集めながら、旅行者に宿場町を巡る旅を楽しんでもらうことで、街道の周遊観光を促進します。

写真提供：平塚市観光協会

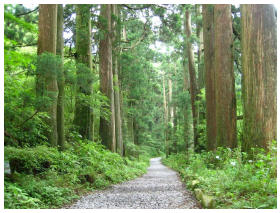
家康弁当

中原御殿周辺で徳川家康が愛したとされる酢が醸造され、江戸城へと運ぶ道が「お酢街道」と呼ばれていたことから、平塚市が「家康」と「食」に着目したプロジェクトを展開。その一環として、家康の好物であった茄子などゆかりの食材を使用した「家康弁当」を市内飲食店が開発しました。

写真提供：平塚市観光協会

日本遺産「箱根八里」

平成30年に日本遺産に認定された、小田原・箱根・三島を結ぶ「箱根八里」。杉並木や石畳、13代目が迎える甘酒茶屋など、江戸時代から受継がれる景観を守りつつ、現代の人々が安全で快適に楽しめるよう、街道の復元や標識の整備など、さまざまな取り組みが行われています。



写真提供：箱根八里街道観光推進協議会

主役は地域の皆様です！

「地域の魅力をもっと発信したい！」「地域に活気を取り戻したい！」江戸街道プロジェクトは、そんな皆様の想いに応えていきます。

自治体の枠を超えて繋がる“道”。そこには歴史や文化、自然、食、温泉など、魅力的な観光資源が点在し、旅行者と地域、そして人々の心を繋いでいます。このプロジェクトは、地域の皆様に街道観光を推進していただくことを目的としており、関東運輸局はその活動の道標をお示しできるよう、取組んで参ります。

有識者のひとこと

筑波大学　名誉教授
石田　東生　氏

申し上げるまでもなく、『江戸街道』は江戸と街道という二つ言葉から構成されている。「江戸」は江戸時代という時代性もあるが、広く江戸周辺と捉え、古代からの道や鎌倉往還なども含むと考えたい。なぜならば、街道にはまち（街）とみち（道）が含まれており、単に往来の場であるだけでなく、街と一体となった魅力や楽しさが重要で、時の積み重ねが不可欠だからである。

訪れる人が楽しみ感動する。住む人も愛着と誇りをさらに深くする。そのような多数の人々が相互に協働して街と道を育てる江戸街道となることを願っている。

江戸街道プロジェクトとは

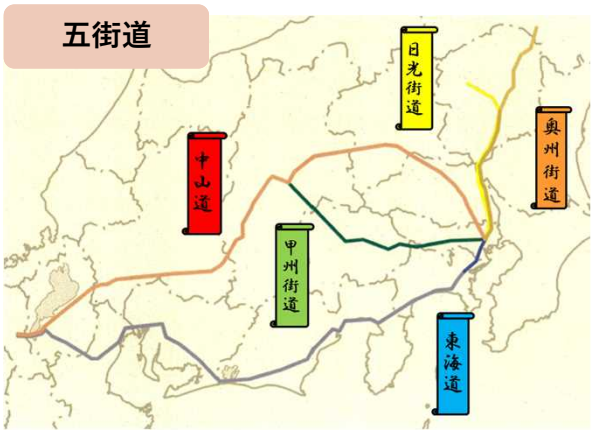
江戸時代の創成期に徳川家康が交通の要所として整備に取り組んだ、日本橋を起点とする「東海道」「甲州街道」「中山道」「日光街道」「奥州街道」の通称 **“五街道”** と、その **“脇往還”** として整備された「水戸街道」や「成田街道」など。

関東運輸局では、これらを含めた**広域関東エリア*1の街道沿い**に散らばる魅力的なコンテンツを、**『江戸街道』**という統一テーマにより新たにブランディングをはかります。

本プロジェクトは、官民一体となって広域関東の魅力を国内外へ発信し、コロナ禍で疲弊した地域に元気を取り戻すための新しい試みです。

*1 福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県の1都10県

五街道



脇往還

◆ロゴマーク

街道ブランドによりこれからも様々な歴史を結ぶことを象徴的に表現するため、濃い色から広がる5色のラインは、地域それぞれの特色ある営みが詰まった歴史を未来に向け発展していく姿をイメージし、円環の２色は広域関東の海、山等の豊富な自然を表すデザインとしました。

リンク

プロジェクトHP　YouTube（シンポジウム映像）　Facebook

製作：国土交通省 関東運輸局観光部　2023. 6月版